



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第462号 2018年8月26日発行

沖繩週間を覚えて、6月30日(土)午後、大阪・京都教区合同聖餐式が聖贖主教会で行われ、説教壇に立たれた沖繩教区主教・上原榮正師父が、以下のメッセージを語られた。



神さまが、大阪教区・京都教区の皆さまの上に豊かな祝福を与え、宣教・伝道の働きが増々豊かに祝福にされますように、お祈り致します。

沖繩から来ました上原です。先週は大阪で大きな地震がございましたが、皆さまの教会や牧師館、信徒の皆さまのご自宅の方は、如何でしたでしょうか。磯主教さまから管区事務所を通して、被害状況を知らせていただきました。沖繩教区事務所では、毎日昼の祈りをしておりますが、地震を覚えてお祈りをしています。これ以上に、地震の被害が起らないようにお祈り致します。

す。

さて、今回は、京都・大阪の合同礼拝にお招きいただき、感謝申し上げます。磯主教さまから、京都・大阪の合同礼拝があります。沖繩から平和について語って下さいと、お電話をいただきました。沖繩からの平和ということでしたので、今日この場に立たせてもらっております。

沖繩からの平和

主教 ダビデ 上原 榮正

そのため戦闘機やオスプレイ、ヘリコプターなどの墜落事故、騒音被害、海上では戦艦と漁船の衝突や漁業被害、基地からの土壌汚染、米軍人との沖繩県民とのトラブル、事件、事故が多発しています。最近、自主規制で、沖繩のことはあまり報道されなくなりましたが、6月11日、米軍のF15戦闘機が墜落し、2日後には訓練を再開しました。6月21日は、農家の畑小屋にアメリカ軍の訓練での流れ弾がガラス窓を貫通して飛び込みました。

土には在日韓国人・朝鮮人問題、北海道にはアイヌ問題があります。沖繩には米軍基地との間に生じる基地被害がいわゆる沖繩問題です。でも、在日朝鮮人、韓国人、アイヌ人、沖繩人に何か問題があるのではありません。これは差別や偏見の問題であり、本土、大和の問題です。

でも日本政府はこれらの事故に対して、アメリカ軍に何の抗議もしませんでした。その上、安倍首相は国会で、F15戦闘機の墜落事故では米軍に抗議をしたとウソの答弁を繰り返しました。本土で同じことが起きたなら、皆さまはどうなさるのでしょうか。

ここに差別があります。構造的差別を無くし、辺野古への新基地建設を止めて下さい、というのが沖繩の声です。でも米軍基地賛成派は、沖繩はお金が欲しいので反対していると言っています。

本土の防波堤となり切り捨てられた沖繩

さて、かつて沖繩は琉球王国と呼ばれていました。豊臣秀吉の朝鮮出兵の時、非協力的だったとの理由から、1609年、薩摩は琉球へ侵攻し、中国との両属支配にしました。明治になると、日本政府は本土の防波堤とするため琉球王国を廃して沖繩県とし、植民地にしました。沖繩では皇民化教育と同化政策により、言葉が奪われ、習慣や文化が失われ、名前も変えられ、本土と一体化していきました。

沖繩人は日本人になろうと努めました。その頂点が沖繩戦です。沖繩戦では、子供たちは鉄砲の弾を磨き、陣地豪を造り、師範学校の男子学生は鉄血勤王隊に、女学生はひめゆり学徒などの准看護師となり、多くが犠牲となりました。

日米安保条約と地位協定を結び、米軍からの被害を、小さい、弱い、本土から見えない沖繩に押し付けています。



た。米軍が沖縄に上陸すると、集団自決も起こりました。集団自決の実態は、家族同士の殺し合いです。国のため、天皇のための集団死でした。皇民化教育の成果です。

しかし、沖縄は外地であり、沖縄人は「化外の民」でした。日本軍は、住民が沖縄語を話せばスパイと見なして殺害し、豪から追い出し、食料を奪い、虐殺しました。沖縄人は日本人にはなれませんでした。沖縄戦から学んだことは、軍隊は住民を守らない、軍が守るのは国家、軍命であって、住民ではない。軍隊が駐留すれば、住民は被害にあうという

ことです。戦争や軍隊では平和は造れません。

沖縄問題の根幹に構造的差別の問題

1945年8月敗戦、19

52年4月28日、サンフランシスコ条約を締結し、日本は沖縄、奄美、小笠原を切り捨て、独立しました。沖縄では4月28日を「屈辱の日」と呼びます。戦争を始めたのは日本、負けたのは日本です。でも、戦争で大きな被害を負った沖縄を切り捨て、日本は独立しました。米軍は、朝鮮戦争、ベトナム戦争で基地の拡大、強化を計りました。そのため沖縄の基地被害は増加、米軍の事件、事故が多発、多くの住民の生命、財産が奪われました。米軍の犯罪や事件が対立、抵抗を生み、農民の島ぐるみ闘争や米軍基地労働者によるストライキやデモを起しました。沖縄が、独立か、信託統治か、本土復帰かの選択を迫られた時、国民主権や平和主義を謳う日本国憲法への憧れから、本土復帰を選択しました。当時の世界規模での反戦平和運動が、米軍の沖縄支配

を困難にし、1972年、沖縄は本土復帰をしました。しかし復帰すると、日本政府は再び沖縄を本土防衛の砦とするため、米軍駐留を継続しました。

米軍用地の確保のため、公用地暫定使用法、地籍明確化確定法、駐留軍用地特措法など、本土では適用されない差別法で、戦争に反対する戦地主の土地を奪い、使用しています。1995年、米兵による女子児童暴行事件をきっかけにSACO（沖縄に関する特別委員会）合意で、普天間基地の返還と新基地建設が決議されましたが、23年経っても基地はできていません。沖縄は、朝鮮戦争、ベトナム戦争で戦争の道具として使われました。辺野古の新基地建設反対は、沖縄が再び戦争の道具となることへの拒絶です。でも本土防衛の前線基地として、本土の安心、安全のために沖縄の米軍基地は必要だ、あるいは沖縄のことは他人事、関心、関係がないとする所に沖縄差別、構造的差別があると思います。日本が歴史を直視し、アジア諸国や太平洋の

島々での過去の過ちを認め、周辺諸国と和解し、平和を創造しなければ、日本に真の平和はないと思います。日本が平和になる時、沖縄の米軍基地も無くなりません。

さて、私の今日のテーマは、沖縄からの平和です。沖縄の伊江島に、かつて沖縄のガンジーと呼ばれた阿波根昌鴻さん（1901〜2002年）という方がおりました。阿波根さんは、「ヌチドウタカラの家」（命こそ宝）という平和資料館を造り、外壁に「平和とは人間の生命を尊ぶことです」と記しています。戦争や争いがなければ平和だ、ということではありません。軍隊や武器、法律や力によって、人間が人間を抑圧し、自由を奪い、生命財産が脅かされる状態があるなら、平和ではありません。生きていく人々が、息苦しさを感じ、圧迫感や、狭苦しいと感じるなら、平和ではないと思います。

一部です。使徒書は、混乱の中にあったフィリピの教会の人々へパウロが書き送った手紙の一部です。喜びの手紙と呼ばれます。福音書は、イエスキリストの最後の晩餐の弟子たちへの告別説教の一部です。

この3つの聖書に共通することは、手紙を書いているエレミヤもパウロも、説教をしているイエスキリストも、安心、安全、平和で、喜んでいられるような状況ではなかったということです。手紙ももたらしたパウロのイスラエル人々は奴隷状態であり、手紙を書き送ったエレミヤはエルサレムで同朋のイスラエル人から迫害を受けていました。手紙をもらったフィリピの教会は、パウロの建てた教会ですが、後から来たユダヤ人改宗者たちが混乱を起こしていました。手紙を書いたパウロは、エフェソで町を混乱させたの理由で投獄されて獄中にいました。イエスキリストは告別説教の後、ゲッセマネの園で官憲に捕えられ、裁判を受け、十字架への死が待つていましたし、弟子たちも不安や

恐れの中に逃げ惑うことになり
ます。

手紙を書いたエレミヤもバ
ビロン捕囚のイスラエルの民
も、パウロもフィリピの教会
の人も、イエスさまも弟子た
ちも、恐ろしい不安や恐れ、
恐怖、絶望などが、蔽いかぶ
さっている状態です。人間的
に見れば、悲壮感の漂う状態
でしたが、エレミヤもパウロ
も、イエスさまも平和が与え
られると述べます。混乱と絶
望の中にある人に、日々の務
めを果たし、敵のために働
き、敵の平安を祈り、どんな
ときにも喜んで、感謝し、祈
りなさい。そして、聖霊を受
け、聖霊に従って生きるよう
にしなさい。そうすれば、あ
なたがたに平和が与えられま
す。というのが、3つの聖書
箇所 요약 です。平和とは、
与えられた今の場所、まじ
めに働いて、隣人の幸せをも
願い、いつも心に喜びと感謝
を満たし、不安や恐れが襲い
掛かってきても、自分の中に
住んでおられる聖霊に全てを
委ね、心に平静を保つことと、
教えます。

平和の実現者である
キリストにならって

でも、このような生き方が
出来るのか、そんな生き方を
した人がいるのか、いたのか
です。自分の力や能力で、聖
書が教える平安、平和の中
に入れるのかといえば、人間
力では無理です。でも、神さ
まには出来ます。そしてイエ
スさまがそのような生き方を
私たちに示してくださいまし
た。イエスさまは神の子でし
たが、この世で人となり、罪
の奴隷、神の敵となっている
人類のために十字架に掛かり、
命を捧げました。死に至るま
で、父なる神さまのご命令に
従いました。

イエスさまは貧しい大工の
子に生まれ、苦しみ、悩みの
中にいた人々に、み言葉を与
え、思い煩いから解放し、病
人や障碍のある人々に病を癒
し、障碍を取り除き、人々に
やさしく微笑み、安心と平安
を与え、喜びを与えました。
いつも喜んでいなさい、を実
践されました。イエスさまが
み言葉を生きられたことで、
「神は、その独り子をお与え

になったほどに、世を愛され
た。独り子を信じる者が一人
も滅びないで、永遠の命を得
るためである。」(ヨハネ3:16)
というみ言葉が実現しま
した。ですから、キリストこ
そ平和の実現者であり、平和
そのものであると聖書は教え
ています。

み言葉の通りに生きること
は人間的には無理なことでは
ない。神の力では出来ません。でも、
神さまには出来ます。周りを
見てください。強そうに見え
ても、元氣そうに見えても、
涼しい顔をしていても、悲し
み、苦しみ、困難や絶望の中
に多くの人が喘いでいます。
平和ではありません。顔は前
を向いていても、心が上では
なく、下を向いて生きている
人が大勢です。

でも本当は、誰もが前を見
て、上を向き、希望を抱いて、
未来に夢を持って生きたいと
望んでいると思います。平和
は一人では造れません。神さ
まがイエスさまを通して、人
と神との和解をされたように、
私たちにも和解が必要です。
キリストが私たちの罪を負っ
て下さったように、私たちが

周りを見回して、隣人の必要
を満たし、共に生きようとす
るなら、希望と力が与えられ
ます。私たちが互いの重荷を
負い、私たちの間にある平和
を乱している厄介ごとや煩わ
しさを担い合うなら、和解と
平和が生まれます。

一人の心を愛と喜びに満た
してくださる時、平和が生ま
れます。平和は与えられるも
のではなく、私の中におられ
るイエスさまを通して、イエ
スさまを伝えることであり、
イエスさまによって平和が造
られ、神の国として広がるの
です。
(うえはら えいしょう・沖
縄教区主教)

大阪教区・京都教区合同礼拝(聖餐式)

『ともに祈る2018』
〜平和への道を歩む者としてください
(沖縄週間を覚えて)

6月30日(土)午後1時30
分より、大阪教区・聖贖主教
会に於いて、特別協働運営委
員会主催で、両教区合同礼拝
が行われました。

とても暑い日でしたが、4
回目の両教区合同礼拝には、

両教区主教が協働司式、沖縄
教区のダビデ上原榮正主教様
から「沖縄からの平和」と題
して説教をいただきました。
合同聖歌隊の賛美が豊かに響
きました。

私たちが知らなかった、知

ろうとしなかった沖縄の現状、
そこから見えるイエス様のお
姿についてのお話を聞くこと
ができ、両教区の信徒、教役
者を含む218人が共に祈り、
聖餐の恵みを分かち合うこと
ができました。

当日の信施166, 114
円は両教区の青少年活動のた
めに献げられました。
京都教区礼拝部、大阪教区
礼拝・音楽委員会の協力で
行われました。

日本聖公会
第64(定期)総会

36の議案を審議
横浜教区主教に入江司祭を選出

司祭 テモテ 内田 望

日本聖公会第64(定期)総会が6月5日(火)〜7日(木)、東京教区牛込聖公会聖バルナバ教会を会場に開かれた。大阪教区からは、磯晴久主教、内田望司祭、千松清美司祭、小池義郎さん、辻節子さんが出席した。諸報告に続き、36の議案を審議し、首座主教の選挙では植松誠主教が選ばれた。また最終日には、横浜教区の主教選挙が行われ、1回の投票でイグナシオ入江修司祭(横浜山手聖公会牧師)が選出された。開会に当たって植松誠首座主教が強調された点、そして今総会で可決された大切な議案は以下の通り。



宝塚黙想の家で。前列左から2人目が講師の大柴譲治牧師

た東日本大震災は7年が経ったが、まだ多くの方々が苦しみや悲しみ、困難の中におられる。今総会期間もこれらの人々と共に歩みたい。

電に対する日本聖公会の立場が採択され、今総会において、「原発のない世界を求める国際協議会」開催が決議された(日時・場所は未定)。

イン」が今回改定され、また「女性の聖職位に関わる委員会」も設置された。

とが語られました。特に「レジリエンス」という概念が興味深かった言葉です。これは「バネの復元力」に由来していますが、そこから「逆境力」とも言われています。否定的なことを言われ続けると、この「逆境力」が低下し、自分の存在が認められるようなことを言われると逆に上昇する、という個人的な体験に照らして考えさせられました。

第3回 主教主催

聖職者黙想会に参加して

司祭 クリストファー 奥村 貴充

退いて修める、「退修」。この言葉が表しているように、日常を離れて修養の時を持つ機会が随時行われています。

師のセルフケア」という主題で行われました。講師に日本福音ルーテル教会の大柴譲治牧師をお招きし、1日目は、ご自身の体験から、教会や関連施設などの現場の中で牧師自身も信頼して何でも話せる相談相手を持つこと、牧師同士の連携やチームワークを大切にしながら孤独に陥らないようにすることなど、様々なこ

る黙想会は、大阪教区では2016年より教役者を対象にした主教主催で実施されており、今年7月19日から20日にかけて宝塚黙想の家で行われました。今回の黙想会は「牧

2日目の午後の閉会聖餐式では主教座聖堂の補修のために14,900円が献げられ、それぞれ遣わされた現場へと散会しました。

(おくむら たかみつ・聖贖 主教会牧師、聖ガブリエル 教会管理牧師)

・2011年3月11日に起き



8月は平和月間

私は、昨年12月10日オス

ロで行われた核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）のノーベル平和賞授賞式で、被爆者サーロー節子さんが行った演説を読み直しております。サーロー節子さんは13歳の時に被爆されました。演説の中で節子さんは、「私は今もあの朝を鮮明に覚えています。8時15分、窓からの青みを帯びた白い閃光に目がくらみました。体が宙に浮かぶ感覚を覚えていきます。静かな闇の中で意識を取り戻すと、倒壊した建物の中で身動きできないことに気付きました。級友たちの弱々しい叫び声が聞こえてきました。『お母さん、助けて。神さま、助けて』そして突然、私の左肩に手が触れるのを感じました。『諦めるな。頑張れ。助けてやる。あの隙間から光が差すのが見えるか。あそこまでできるだけ速く這っていくんだ』。誰かがこう言うのが聞こえました。這い出ると、倒壊した建物に

は火が付いていました。あの建物にいた級友のほとんどは生きたまま焼かれ、死にました。……このようにして、私の愛する都市は一発の爆弾によって消滅したのです。住民のほとんどは非戦闘員でした。彼らは燃やされ、焼き尽くされ、炭になりました。その中には私の家族と351人の級友が含まれています。敗戦後、彼女は犠牲者であることに甘んじることを拒否して立ち上がり、生き延びた体験を分かち合い、人類と核兵器は共存できないのだという「声」になりました。彼女たちの「声」は、2017年7月7日、国連で世界の大多数の国々が核兵器禁止条約の採択に賛成するという実を結ぶことになりました（※国連加盟当時193か国中122か国が賛成しましたが、残念ながら唯一の被爆国日本は反対しました）。人類の最悪な側面を目撃した彼女は、この日は最良の側面を目撃したと喜びを語っておられます。そして「被

爆者は72年の間（核兵器が）禁止されることを待ち続けてきました。これを核兵器の終わりの始まりにしようではありませんか」と今も呼びかけておられます。そしてメッセージの最後をこう結んでおられます。

「私は13歳の時、くすぶるがれきの中に閉じ込められても、頑張り続けました。光に向かって這っていききました。そして生き残りました。今私たちにとって、核禁止条約が光です。この会場にいる皆さんに、世界中で聞いている皆さんに、広島島の倒壊した建物の中で耳にした呼び掛けの言葉を繰り返します。『諦めるな。頑張れ。光が見えるか。それに向かって這っていくんだ。』サーロー節子さんは諦めないで光に向かって、地を這うように歩もうと、繰り返し呼びかけておられます。原爆を落とすのは人間です。同時に、落としてはならない、核兵器を廃絶しなければいけない、と決意できるのも人間です。私たちに何ができるでしょう。か。長崎の高校生平和大使のことは聞きましよう。私

私たちは「微力だけれど無力ではない」。私たちもあきらめずに祈り、平和と言う光に向かって歩いて行きます。 (主教 アンデレ)

日本聖公会大阪教区婦人会

秋の修養会

「弱さを担ってくださる神さま」
コリントの信徒への手紙 II 12:10

日時 10月18日(木) 午後1時

場所 大阪聖パウロ教会

講師 橋本るつ子さん
榎本保郎牧師(ちいろば先生)の長女
近江八幡アシュラムセンター スタッフ

献金先 バザールカフェ
弱者やマイノリティの人々に寄り添う
活動拠点、日本基督教団京都教区が
運営・支援

アジア教会婦人会議日本委員会 (ACWCJ)

第32回 関西支部一日研修会

日時 10月5日(金) 10:30 ~ 15:00

会場 日本キリスト教団 神戸栄光教会

DAY礼拝 野田和人 牧師
(日本キリスト教団神戸栄光教会)

聖書研究 橋本いづみ 牧師
(日本キリスト教団西宮一麦教会)

講演 河 礼子氏
(向上社保育園園長 西院ふれあい食堂役員)

私たちは「微力だけれど無力ではない」。私たちもあきらめずに祈り、平和と言う光に向かって歩いて行きます。 (主教 アンデレ)



只今再び日本へ

司祭 ステパノ 柳時京

7月から大阪教区宣教協働者となった韓国ソウル教区出身の司祭ステパノ柳時京と申します。2001〜2010年の間、東京の立教大学でチャプレンとして務めたので、関西というよその地域ではありませんが、2度目の日本勤務になります。しかし、振り返ってみますと、実は私の日本聖公会とのご縁は大阪での出来事から端を発します。

1984年に始まった日韓聖公会の交流は、10年間の大人同士の「宣教セミナー」を終え、1995年に韓国で第1回日韓青年キャンプを予定していました。ところが、同年1月に阪神淡路大震災が起こり、日本からキャンプ中止という急報が飛びます。日韓協働委員会では、未来教会への備えの意義をもつ大切な約束なので、是非キャンプを実現すべく暗中模索をしました。

結果、ワークキャンプに趣旨を変えて震災の隣接地で実施する運びとなり、そのベースキャンプ地は芦屋聖マルコ教会でした。7月の炎天下で両国の若者が一緒に汗を流しながら、西宮での教会の修復工事、長田町でのボランティア活動など、熱い2週間を過ごした際に私も引率者として来ていました。ご褒美で六甲山の焼き肉を頂き、何より松原栄司祭から参加者全員に署名入りの日本語聖書がプレゼントされ、感無量でした。それが実ったかのように、当時の若者から5人が司祭になり、その内3人が現在日本聖公会で働いています。

キャンプ中に日本の司祭から習った歌が、それ以降の宣教の方針として私の歩みの中に生きています。「君と僕との間には目には見えない壁がある 国境の壁 言葉の壁

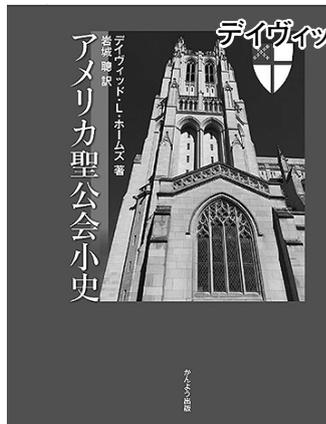
歴史と暮らしの壁がある。この壁を崩したら壁は倒れて海に浮かび海を渡る大きな橋になるだろう」

大阪での働きを通して、あらゆる壁を無くされた主イエスの歩みに従って参りたいと願います。神様のお導きと皆様のご協力をお祈り致します。

「それは人間にできることではないが、神は何でもできる。」(マタイ19:26b)

新刊

アメリカ聖公会小史



著者 デイヴィッド・L・ホームズ
訳者 岩城 聡

出版 かんよう
¥2,400+税

6月に『アメリカ聖公会小史』がかんよう出版から発行されました。本書は、もともと植民地アメリカにおけるイングランド教会であり、階層的にも政治的にも保守的であった聖公会

が、独立戦争後の苦闘を経て、独立したアメリカ聖公会 (The Episcopal Church)

としてのアイデンティティを確立し、やがて、先住民やアフリカ系アメリカ人、ヨーロッパからの移民などに対する宣教活動を通じ、次第にその視野を広げ、差別されている人々や女性の人権に対する擁護者として変化してゆく過程を、通史を通じて明らかにしています。今までこのような通史が日本で出版されたことはありません。是非お買い求めの上、ご一読ください。

公 示

救主降生 2018年7月1日
日本聖公会大阪教区主教
主教 アンデレ 磯 晴久

下記のとおり、人事を発令します。

記

司祭 ステパノ 柳時京 (大韓聖公会司祭)

2018年7月1日付で大阪教区は同師と宣教協働者として契約を結び、大阪教区主教座聖堂付とする。

以上

私が韓流関係を大好きなことは幾人かの方はご存知だと思えます。幾度か説教の導入でお話しさせてもらい、多くの婦人から賛同いただいたことがありま

す。この2年ほどは韓流ドラマから代わってKポップの、あるグループに夢中です。彼らはデビューして10年になる韓国でもベテランの域にあるアイドルですが、メンバーは皆まだ20代です。彼らの歌う歌の歌詞は、主に彼らとファンとの関係について「愛」をテーマに、時には力強く時には切なく歌い上げるものです。ファンはその歌詞に自分を投影

聖職リレーエッセー 4



Sing Your Song

司祭 ジョイ 千松 清美

して、最近では妄想といわれま

と分けるたびにだんだん小さくな

ら、最近では妄想といわれま... 君に出会えて良かった。君を探して

もっと大きくなってゆく。君に出会えて良かった。君を探して

「大阪北部地震」の被害状況

6月18日(月)午前7時58分に起こった「大阪北部地震」による被害状況を報告します。

【日本聖公会神戸教区 被災者支援室だより】より

災害復興ボランティアさんを募集

期間 8月1日(水)～31日(金)

内容 被災家屋などの家財の清掃

場所

倉敷聖クリストファー・ボランティアセンター(VC)は、倉敷市真備町

広島聖モニカ VCは、広島市内

※8月末までVCの活動が行われます。支援活動を行う方々を覚えてお祈りください。

世界の窓

○カンタベリー大主教、ナイジェリアのキリスト教徒虐殺を懸念

カンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師父は、武装勢力から攻撃を受けたナイジェリアの大主教と電話会

談を行った。この事件では、武装勢力に歯向かった隣人が殺害されている。ジョス（ナイジェリア中部の都市）の大主教ベンジャミン・クワシ師父は襲撃当時、境内にいたため事なきを得た。クワシ師父の家は以前にも標的にされており、2006年に襲撃された時には、妻子が暴行を受けている。また、それらの襲撃はフラニ族によるものであった。牧畜民族であるフラニ族はこの1年内に70人以上のナイジェリア人（その多くはキリスト教徒）を殺害している。ランベス宮殿からの声明では、ジャスティン・ウェルビー大主教がこの会談は個人的で牧会的な話し合いであり、会話の詳細が公にされることはないだろうと付け加えられている。

る。カンタベリー大主教は4月にロンドンで、ナイジェリアのムハンマド・ブハリ大統領と面談し、ナイジェリアの治安状況とそれに対処するための政府の取り組みについて語り合い、攻撃を受けるキリスト教の共同体や村の苦しみに対する懸念を表明し、紛争解決の支援を要請していた。<Anglican Communion News Service, July 4th, 2018>

○ランベス宮殿・障^が碍を持つ人々のための大会を開催

ランベス宮殿においてカンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師父は、どのようにすれば障^が碍を持つ人々が教会生活に深く参与できるのかを探るための大会を開催した。7月13日に催されたイベントでは障^が碍者が教会生活の中で直面する障^が碍を模索し、それについて教会の全てのメンバーが参画して賜物を分かち合うには何が出来るのかを確かめていった。また、この大会は教会に属する障^が碍を持つ人々に、教会活動への参加を促進させる機会となった。

ランベス宮殿は、地域の人々と障^が碍者をつなぐための慈善団体「リバビリティ」と提携してこのイベントを企画した。基調講演はアバディーン大学のジョン・スウィントン実践神学教授が担当し、その他にもビデオ鑑賞やライブデイスカッションなど多彩な催しが行われ、障^が碍を持つて生きる人々の声がこのイベントの中心となった。そして、礼拝によって大会は終了した。ジャスティン・ウェルビー大主教は、謙虚かつ感動的なイベントであったと表現し、「この種の会話と特に障^が碍を持つ人々から深く聞くことは絶対に必要不可欠である。そして私は教会がすべての人を価値あるものとして受け入れていることを篤く信じる」と語った。

<Anglican Communion News Service, July 20th, 2018>

（邦訳：司祭 ヤコブ 松平 功 まつだいら いさお、守口聖オーガステイン教会牧師、守口ぶどうのいえ施設長、桃山学院教育大学およびプール学院短期大学チャプレン）

秋の講演会

多様性のある平和な世界を目指して

ありのままの自分を愛する

講師 ソンプジャ 宋 富子氏

日時 10月29日(月)
午後6時30分～8時30分

会場 カトリック大阪梅田教会サクラファミリア

共催 外国人との共生をめざす関西キリスト教代表者会議
大阪キリスト教連合会

2018年度大阪教区在日学習会シリーズ

ソンプジャ 宋 富子氏講演会

愛するとき平和の奇跡が創られる

愛することのない者は神を知りません。

神は愛だからです。

(新約聖書ヨハネの手紙I 第4章8節)

日時 9月24日(月・休日)
午後1時30分～3時30分

会場 大阪城南キリスト教会

主催 大阪教区在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会
後援 大阪教区社会宣教委員会

教区の動き

常置委員会報告

6月15日(第9回定例)
7月12日(第10回定例)

I. 主教報告

*6月7日(木) 横浜教区主教選挙が行われ(管区総会、於聖バルナバ教会)。入江修司祭(横浜山手聖公会)が当選された。主教按手式・就任式は9月8日(土)に挙行される。

*西原廉太司祭(中部教区、立教学院副総長)がキリスト教学校教育同盟の理事長に就任される。

*英国聖公会ロンドン教区においてサラ・マラー師(女性)が主教就任。英国では15人の女性主教がいて、内4人が教区主教(他は地域主教、地区主教)として働きを行っている。

*東京教区主教選挙は9月1日(土)に予定されている。

*プール学院短期大学は2020年に学生募集を停止する。

II. 3局長報告、及びその他諸報告

*教区礼拝(9月30日(聖霊降臨後第19主日、於プール学院清心館)のテーマ・聖句は、「証し人は、あなたです」。あなたたちがわたしの証人である(イザヤ書43章12節)と決められた。午後のプログラムとしては「広島平和写真展示会」(社会宣教委員会企画)、及び「キッズ広場」(生涯学習委員会企画)が催される。

当日の「信施」は西日本豪雨災害被災者支援のために献げられる。

*財政局財務委員会より、2019年度の一般会計予算案が提示された。

*教区組織のスリム化について検討を開始。

III. 協議事項

*教区共同墓地設置について、

管財委員会の報告を受けて、その実現性及び問題点について意見交換。アンケート調査を踏まえ、実地見学等、更に検討を加える。

*宣教協働者・柳時京(ユ・シギヨン)司祭来阪に関して、諸案件を討議。

*大阪城南キリスト教会4階居室(教区所有)の付属設備老朽化による修繕実施を承認。
*熊本聖三一教会(山崎貞司司祭)より、地震見舞金20万円を受領。主教座聖堂(川口基督教会)の補修工事に充当させていただきます。(以上)

教会・施設の動き

大阪聖愛教会

○去る7月21日(土)松岡虔一司祭をお迎えして修養会を開催しました。午後からは地域の方と共に、聖愛ミニフェスタ・ビアガーデンを行い、交わりの時を持ちました。

大阪聖パウロ教会

○7月28日(土)当教会に活動拠点を置くJOCs関西事務局は、大阪JOCs共催で「オープンサタデー」とい

大阪聖アンデレ教会建て替えと 聖別解消礼拝のお知らせ

このたび、桃山学院大学経営学部ビジネスデザイン学科新設に伴い、大阪聖アンデレ教会の現存地に学舎が建設され、その建物の1階に教会の礼拝堂・集会室が移設されることになりました。つきましては、下記の通り、現礼拝堂の聖別解消礼拝を行いますのでご案内いたします。

2018年9月23日(日)

司式・説教 主教 アンデレ 磯 晴久 師父

10時30分からの聖餐式に引き続き、聖別解消礼拝が執り行われます。

なお、新礼拝堂の完成は2020年8月を予定しています。その間の礼拝は、9月30日の教区礼拝を挟んで、10月7日(日)より、近隣の『一桃ビル』6階ホール(大阪市阿倍野区文の里4丁目21-30。地下鉄昭和町駅より東へ徒歩約6分)で行います。電話・郵便物の宛先は現行のままです。

教区成立95周年 大阪教区礼拝

テーマ：証し人は、あなたです

日時：9月30日10時30分

(聖霊降臨後第19主日)

場所：プール学院清心館

(大阪市生野区勝山北1-19-31)

司式：主教 アンデレ 磯 晴久

説教：主教 アンデレ 中村 豊(前神戸教区主教)

午後のプログラム

・広島平和写真展 …… 企画：社会宣教委員会

・キッズ広場(カフェテリア・テラスにて)

… 企画：生涯学習委員会

教区関係教役者

逝去者記念聖餐式

◇ 9月12日 (水) 10時30分

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者：ペテロ 松山龍二司祭

- 4日 執 事 ラザロ 布施 好古 (1938)
- 6日 主 教 ヨハネ 名出 保太郎 (1945)
- 9日 司 祭 ジェームズ・J・チャプマン (1946 英)
- 11日 司 祭 チャールズ・ハムデン・バジル・ウッド (1941 英)
- 12日 主 教 ヘンリー・エヴァントン (1912 英)
- 14日 宣教師 ドロシー・サローム・ワインウイelson (1963 英)
- 23日 主 教 ペテロ 柳原 貞次郎 (1973)
- 司 祭 ドナルド・F・ウインズロー (2000 米)
- 25日 司 祭 田中 正之助 (1927)
- 27日 宣教師 エルシー・メイ・ベイカー (1977 英)

◇ 10月10日 (水) 10時30分

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者：サムエル 坪井克己司祭

- 2日 司 祭 ジョージ・チャプマン (1940 英)
- 5日 司 祭 サムエル 福田光宏 (2013)
- 9日 主 教 ヨハネ 山田 襄 (1993)
- 12日 司 祭 マルコ 岡 精三 (1997)
- 16日 主 教 ペテロ 松井 米太郎 (1946)
- 主 教 サムエル・ヘーズレット (1947 英)
- 18日 司 祭 ステパノ 木庭 孫彦 (1928)
- 20日 司 祭 チャールズ・セオドア・ワレン (1949 英)
- 23日 司 祭 ステパノ 遠藤 敏雄 (1971)
- 24日 司 祭 深田 直太郎 (1945)
- 司 祭 ペテロ 横田 久明 (1995)
- 25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン (1971 英)
- 29日 司 祭 セオドシアス・ステファンズ・ティング (1927 米)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、主教座聖堂 (川口基督教会) で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

う学習会を当教会で開催しました。台風到来の中でしたが、ボランティア・教会関係者・活動支援者等30人を超える方が来会。今回はアフリカ・タンザニア派遣医師として、現地ダボラ州でJOC S海外医療活動に3年間従事された弓野綾ワーカーご夫妻の報告会を行いました。これに先立ち、芦屋聖マルコ教会でも7月8日(日)にコンサートと併せて報告会が開催されました。

祝 受 洗

○川口基督教会

洗礼者ヨハネ

今井 廉 (6月24日)



西宮聖ペテロ教会

○教会コンサート「風と弦のしらべ vol.21」

日時：9月8日(土) 午後2

時開演(午後1時30分開場)

オルガン：甲斐弦也、ヴァイ

オリン：北島里枝

入場無料

祝 初 陪 餐



○高槻聖マリヤ教会

ヒルデガルト 河上 春香 (7月1日)

○高槻聖マリヤ教会

ヒルデガルト 河上 春香 (7月1日)

○川口基督教会

グレース 井上 郷子 (6月24日)

○大阪聖愛教会

チエチリア 中尾 美悠 (7月15日)

魂の平安を

祈ります

○川口基督教会

ヨハネ

山下 純一 (6月25日・85歳)

○芦屋聖マルコ教会

イサク 宇野 良彦 (7月2日・80歳)

ハンナ 宮原 幸 (7月14日・87歳)

編集後記

大阪北部地震に引き続き、西日本豪雨災害と自然災害が続きました。災害の犠牲者の魂の平安と、被災者の方々の慰め、励ましを祈ります。また、原爆投下から73年の夏を迎えました。広島・長崎原爆投下を覚え、平和と非暴力の実現のために心より祈ります。

現在、総務局広報委員会では新体制で編集に臨んでいます。今年度の広報委員は次の通りです。司祭林正樹(長)、司祭松平功、司祭古澤秀利、執事金山将司、辻節子(石橋聖トマス)、小出裕司(大阪聖アンデレ)、林義人(高槻聖マリヤ)、米田久美子(大阪聖愛)、井上るみ子(芦屋聖マルコ)、協力：司祭内田望(総務局長)の皆さんです。

(G)